小学生を持つ親の住意識

家庭における住教育に関する基礎的研究 第一報

CONSIDERATION ON HOME EDUCATION AS RELATED THE HOUSING ENVIRONMENT BY PARENTS OF ELEMENTARY SCHOOL CHILDREN

Basic research Part 1

山崎古都子*, 町田玲子**

Kotoko YAMASAKI and Reiko MACHIDA

This paper analyzed the parents ideas and expectations concerning the factors involved in determining the course of education.

Results: Today's, the interests of parents on housing life can be grouped into eight categories. The interests of housing life appear at each stage of housing demand. According to where the parents put the emphasis, policies of housing education can be typified 5-type. The interests of housing life and policies of housing education both show high correlation between the type of housing, the age of the housing facility, the current living conditions. A high degree of correlation was in the between their categories.

Keywords : *management of housing, housing education, views of housing, policy of housing education, transmission, home education*

住生活管理, 住教育, 住意識, 住教育態度, 文化の伝承, 家庭教育

1. 序

筆者は既論文¹⁾において, 優れた共同住宅管理を実現するにあたって責任をもって管理する人を育てることとその教育システムを開発することの必要性を指摘してきた。

本研究は, 住居管理の側から住教育に視点を当てる。

住居管理は住環境に含まれる空間, 施設, 物, コミュニケーション, 文化に関する快適な生活条件を居住者に保障するためにそれらを能動的, 目的的に整備する行為である。またその結果は, 住居に社会財としての価値を付加し, 住生活様式(住生活文化)を確立することを期待されている。つまり住生活文化は継続的に管理行為をすることによって形成されていったものといえるだろう。しかし管理行為を継承する者がいなければ整えた事象は様式化する前にやがて荒廃する。

ところで教育は先人の蓄積した文化の体系とその価値を後世に伝承する機能と, 文化の次代の主体的担い手を育てるという機能を内包している。したがって住様式の教育化は居住条件を安定させるという住居管理の最終行程であり, 観点を変えれば住居管理は住生活文化を伝え

るという教育の対象でもある。

以上は教育の目的としての住居管理の意味であるが, 一方住居管理行為は教育の手段としても重視されてきた。例えば, 雲水, 職人・芸術家の弟子などのその道への入門はしばしば掃除作業から始まった。またオクタビア・ヒルは住生活管理²⁾を通して人格の陶冶を図ったことで知られている。彼女は19世紀イギリスの産業革命期に悲惨な, 場合によっては退廃的な生活をしていた貧困な労働者層に居住地の管理を指導することによって, 彼らの生活を秩序づけ, 自己の尊厳を取り戻させることに成功した。すなわち, これらには住生活の管理は「居住者が自らの手で居住環境を整備することによって生活の主体性を確立し, 自己の尊厳を築く」行為の過程と結果であるという認識があったといえるだろう。

住居管理における住教育の最後の意義は管理技術修得過程であるということである。新しい住環境装置が出現した後はその装置が実生活上機能するために, ぜひともその居住者はその管理を熟知し技術を身につける必要がある。これには教育・訓練の直接的な意味がある。

本研究では住居管理の研究を進めるに当たって以上の

* 滋賀大学 教授・学博

** 京都府立大学 助教授・学博

Prof., Shiga Univ., Ph. D.

Assoc. Prof., Kyoto Prefectural Univ., Ph. D.

視点から住教育のテーマをとらえるものである。

2. 研究目的

住教育の分野は学校教育、社会教育と並んで家庭教育がある。学校教育が特定の年齢の学習者に限定的にしか及ばないこと、社会教育が必要課題に応えにくいことに比べて家庭教育はすべての学習者の生活実践の場で行われることと、日常生活を通して繰り返し行われること、各々の生活の実状に合わせて展開されること、常に応用が伴うことなどから住教育をするうえで最も基本的・かつ効果的な方法である。このことはこれまでしばしば指摘されてきたが具体的な研究はほとんどされていない。その理由には家庭生活はあくまで個人の主体性にゆだねられるもので、プライバシーを侵してはならないという原則に立つと家庭の責任を住教育の構造の中に位置づけることが困難であることが挙げられる。筆者は家庭の位置づけを明確にした後は上記の住教育組織の三つの円が交わり合う内円関係をとらえ、学校教育や、社会教育からのアプローチのありかたを見つけるべきであると考えている。

筆者はまず帰納法的方法で事例を積み重ねることから家庭における住教育の存在の確認と解釈をすることによって本課題に取りかかる。まず最初に今回取り上げたのは今日の家庭における住生活様式の伝承過程である。

本報の目的は今日の親の住意識を解釈することである。論文の進め方は親の住意識を形成する住生活の関心と住教育態度^(註2)を取り上げ前者が後者の形成にどのようにかかわっていくかに論点を置いた。したがってまず第1に、親の住意識を分析する。本報の第2の目的は、親の住教育態度を分類することである。この住教育態度は次報以降住教育の状況を分析し、系統的に把握するための重要な指標となる。

なお、次報では住生活様式の伝承の例として「正座」、「履物の整理」、「敷居の通り方」などを例にとりあげて、住生活の秩序のしつけについて考察する。正座は、かつては日本の住生活の秩序教育として重視されたが、封建性に根拠を持ち、かつ子供の発達上生理的な無理を強いるものとしてしつける意義が減じて消極的な位置におかれた時代を通過した。しかし昨今では今日的な合理性を見直す意見もある。他の項目も伝承について各々の論点を持っているものを選んだ。

3. 研究方法

滋賀県と京都市にある小学校の5・6年生の担当教師に依頼し、5・6年に在籍する児童を通してその親を対象にアンケート調査を行った。

調査対象の小学校の選定にあたっては、できるだけ古い住様式を残している家庭と住生活の新しい条件の創成

期にある家庭を含む多様な家庭になるように配慮した(調査対象校については表—1 参照)。

調査時期：1988年6月および1989年7月

4. 結果および考察

(1) 調査対象世帯の家庭の諸属性

調査対象世帯の住居、家族の属性は表—1に示した。なお、住居、家族関係、職業等から校区の性格を分類して地域という名称でまとめた。

(2) 住生活の関心

1) 住生活の関心内容

表—2に表した項目を選択肢にして住生活の関心の内容を質問した。その結果、回答が過半数を占めたのは日常の維持管理と、近所との関係についてである。次に室内装飾・模様替え(以下しつらえとする)や部屋の使い方が続く(いずれも45%)。これに比べると住宅・土地問題、住生活の伝統行事等(以下伝統行事と略す)への関心は低い。住宅形式別の住生活の関心内容をみると(表—2)一戸建てに相対的に多かった項目は庭や草花の手入れ(以下庭の手入れとする)、住宅の改善、住宅の手入れ、伝統行事で、逆に共同住宅のほうに多かった項目は近所との関係、住宅問題、住み方のルールである(住宅の手入れ以外は住宅形式別に1%以下の水準で有意差がみられた)。特に全体に住宅の物的な維持管理に関心が高い中で、共同住宅居住者の60%が近所との関係に関心を示していること、住み方のルールが一戸建ての2倍あることは注目値する。住生活の関心内容とその他の各基本変数との相関は表—3のようである。これらからみて住生活の関心は居住条件に関する変数(都市と農村、地域の新旧、住宅形式、用途、建築年代、居住年数)と相関が強く、親の職業や年齢との相関は低い。

2) 住生活の関心の特徴

上記のことから住生活の関心には日常の維持管理のように居住条件のいかににかかわらず一般的な関心を占めるものと居住条件の問題状況を写し出すものがあること、かつ、後者の問題状況とは住宅の老朽化と都市の住宅事情が強いということがいえる。このように各項目には選択する居住者の居住条件に関する意味づけが隠されている。つまりこの質問において重複しあう回答間の傾向を分析することによって関心項目の性格(潜在的な意味づけ)を読むことができるし、居住者の関心の形成のされ方を理解できるはずである。ここではそのことについて林の数量化理論Ⅲ類を使って以下のように住生活の関心の内容を分析した。

図—1は数量化の結果得られた解Ⅰと解Ⅱを使って各関心項目を座標面上にプロットしたものである。まず解Ⅰ(縦軸)に着目すると各項目は、プラス方向からマイナス方向へ向けて社会性が強いものから個別性の強いもの

表—1 調査対象家族の属性

学 校 の 所 在 府 県		合 計	滋 賀 県						京 都 府				
地 域			農 村 地 域			地 方 人 口 急 増 地 域			地 方 市 域 守 山	都 心 伝 統 産 業	集 合 住 宅 多 有 地 域		
校 区(略称)			小 計	大 滝	稲 枝	小 計	金 城	大 宝			小 計	岩 倉	八 幡
配 票 数 (世 帯)		1169	155	60	95	231	90	141	172	204	407	165	242
回 収 率 (%)		79.0	96.1	90.0	100.0	92.6	94.0	93.6	90.7	84.3	57.2	65.5	51.7
有 効 世 帯 数 計		924	149	54	95	214	85	129	156	172	233	108	125
家 族 型	計*(世帯)	867	145	52	93	201	84	117	132	158	231	108	123
	核家族	70.0	32.4	50.0	22.6	81.1	79.8	82.1	72.7	58.2	90.5	83.3	96.7
	世代家族	30.0	67.6	50.0	77.4	18.9	20.2	17.9	27.3	41.8	9.5	16.7	3.3
	不明**	(57)	(4)	(2)	(2)	(13)	(1)	(12)	(24)	(14)	(2)	(-)	(2)
母 の 職 業	計*(人)	884	145	50	95	207	81	126	147	164	221	106	115
	有職	68.9	85.5	78.8	89.5	33.4	58.5	82.2	76.0	71.9	59.5	67.3	53.8
	無職	31.1	14.5	21.2	10.5	76.6	41.5	37.8	24.0	28.1	40.5	32.7	46.2
	該当無し	(40)	(4)	(4)	(-)	(7)	(4)	(3)	(9)	(8)	(11)	(2)	(10)
父 の 職 業	計*(人)	878	146	54	92	202	78	124	146	165	219	104	115
	在宅自営	12.2	10.3	11.1	15.2	6.4	11.5	3.2	9.6	30.9	4.1	7.5	0.9
	在宅自営	8.2	6.2	1.8	5.4	5.9	10.3	3.2	6.2	10.9	12.3	17.8	7.0
	雇用者	74.6	75.3	75.9	75.0	83.2	71.8	90.3	78.1	56.4	77.6	64.5	87.8
	その他	4.9	6.8	11.1	3.3	4.5	6.4	3.2	6.2	1.8	5.9	4.7	4.3
	無職	10.9	0.7	-	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	該当無し	(46)	(2)	(1)	(1)	(3)	(3)	(-)	(4)	(1)	(7)	(1)	(6)
住 宅 形 式	計**(戸)	907	147	53	94	211	82	129	152	171	226	107	119
	一戸建て	69.7	96.6	94.3	97.9	91.5	87.8	93.8	76.3	71.3	26.2	42.1	11.8
	集合住宅	30.3	3.3	5.7	2.1	8.5	12.2	6.2	23.7	28.7	73.8	57.9	88.2
	不明**	(17)	(2)	(1)	(1)	(3)	(3)	(-)	(4)	(1)	(7)	(1)	(6)
住 宅 の 用 途	計*(戸)	914	147	52	95	211	82	129	154	172	230	107	123
	専用住宅	80.4	58.5	73.1	50.5	91.5	91.5	91.5	80.5	65.1	95.7	90.7	100
	併用住宅	10.9	4.8	5.8	4.2	4.3	4.9	3.9	10.4	34.9	3.5	7.5	-
	農家	8.6	36.7	21.2	45.3	4.3	3.7	4.7	9.1	-	0.9	1.9	-
	不明**	(10)	(2)	(2)	(-)	(3)	(3)	(-)	(2)	(-)	(3)	(1)	(2)

注 計*は該当無し・不明を抜いている＝各百分率の母数，** () 内は実数，1) 出 水

表—2 住宅形式・家族型・地域別住生活の関心

合計	住宅形式		家族型		地域					
	戸建て	集合住宅	核家族	世代家族	農村	地方	地方人	都心伝統	集合住宅	
					小都市	人口急増地	産業地	多有地域		
不明を除く合計（実数）878人 100.0%	604人 100.0%	281人 100.0%	580 100.0%	252 100.0%	143 100.0%	151 100.0%	198 100.0%	162 100.0%	224 100.0%	
掃除や整理整頓	64.8	66.9	60.2	61.9	67.9	60.1	71.5	66.2	61.7	63.4
近所との関係	53.1	50.5	60.2***	56.9	41.3***	42.7	55.0	54.5	51.9	58.0
室内装飾・模様替え	45.1	46.4	43.3	44.3	45.2	36.4	43.0	47.5	40.1	53.6 *
部屋の使い方	45.0	47.0	41.8	42.1	46.4	37.1	43.7	40.4	51.9	50.0 *
庭や草花の手入れ	39.0	46.2	23.8***	40.7	33.7	35.0	46.4	53.0	23.5	35.3***
家を改善すること	36.2	40.1	27.6***	32.1	44.8**	44.8	37.1	35.9	41.4	26.8 **
住宅の手入れ	30.5	34.6	21.5	28.4	33.3	32.2	33.1	33.8	30.9	24.6
住宅問題	15.0	8.4	29.5***	17.8	6.0***	2.1	14.6	7.1	20.4	26.8***
土地問題	13.1	12.4	14.2	14.5	9.9	7.0	11.9	9.6	17.9	17.4***
古くからの行事	12.0	14.7	5.7***	7.6	21.8***	25.2	13.9	10.1	10.5	4.9***
住み方のルール	10.9	8.4	16.9***	12.4	7.9	4.2	9.3	11.1	9.9	17.0 **
電気製品の修理	8.9	4.1	8.0	8.8	8.7	6.3	8.6	9.1	11.7	8.5
日曜大工	4.8	5.8	2.7	4.1	6.3	6.3	5.3	5.1	4.9	3.1
その他	0.7	0.7	0.4	0.7	0.4	0.7	0.7	1.0	1.2	

Pとはカイ二乗検定による危険率を表し、* P<0.05, ** P<0.01, *** P<0.005水準で有意差がある

表—3 各基本属性と住生活の関心との相関

基本変数名	P 値
学校	0.0001
地域	0.0001
家族型	0.0001
父親の職業	0.7941
母親の職業	0.6606
母親の年齢	0.5329
住宅の形式	0.0001
住宅の用途	0.0001
建築年代	0.0001
居住年数	0.0029

P値: カイ二乗検定による
有意水準の値

の順に並んでいる。つまり解Ⅰは住生活の関心課題における社会性の有無、または問題の解決のために社会的領域・広がりがあることを示唆している。解Ⅱ(横軸)ではプラス方向には住生活にかかわる項目が、マイナス方向にはフィジカルな装置・住宅などが物の大きさの順に並んでいる。つまり解Ⅱは関心の対象を分類する軸である。

次に上記の2軸の直交座標によって分かれた4つの座

標面に着目する。第1象限は住生活面の社会的課題のフィールドであるが、住み方のルール、伝統行事、近所との関係といった住生活(地域を含む)の内容にかかわる項目が集まった。第2象限は住宅の社会的課題のフィールドである。この象限には縦軸の上位に住宅問題、横軸の左方に住宅改善が位置した。これらは共に経済性などから個別の解決が困難な住宅の問題の社会的側面を持っている。第3象限は住宅の非社会的個別的課題のフィールド

図一 林の数量化Ⅲ類による住生活の関心項目の分布（解Ⅰ，解Ⅱ）

図三 林の数量化Ⅲ類による住生活の関心項目の分布（解Ⅱ，解Ⅲ）

図二 住生活の関心の構造

である。部屋の使い方、しつらえ、庭の手入れといった項目が位置した。第4象限は住生活の非社会的・個別的課題のフィールドである。住宅の手入れ、日常の整理掃除といった家事労働上の関心項目が位置した。第3、4象限ではほとんどの項目が原点近くに集まったのはいずれも回答率が高く、各象限に散った多くの項目との間で回答が重複したためである。言い換えると回答者の特徴が薄い項目である。

さらに解Ⅲに着目した（図一3）。その結果、図一1で同じ第2象限上にありながら距離が隔たっていた住宅改善と住宅問題が解Ⅲのプラス方向（住宅改善）と、マイナス方向（住宅問題）に大きく分割された。さらによりプラスの方向には伝統行事があり、それは1.0以下の近所との関係、住み方のルールと大きく隔たった。その他の項目の並び方も合わせてみると解Ⅲは住宅の取得の時代を分ける軸であることがわかる。そして軸の意味を利用すると項目の並び順によって住宅需要期には住宅問題に、取得後早期にはしつらえに、定着期には近隣関係に、更新期には住宅改善にたいする関心が対応し、居住者の住生活の関心内容について住宅の需要から取得・定着・更新に至る段階の位置を理解することができる。さらに多くの項目の点の位置は第3象限から第1象限への滑ら

かな曲線上にあり、関心は物的側面から次第に住生活の側面に移っていくことが理解できる。つまり住生活の関心は住宅の需要とともにあり、これによってその各段階における問題状況を把握することができる。

3) 住生活の関心の型わけ

次に以上の3軸を使って住生活の関心の分類をする。分類の作業はまず解Ⅰと解Ⅱの直交座標によってできる4つの象限で4分類し、その上でさらに解Ⅲの軸でそれぞれをプラスとマイナスに分割する。各ケースにはその回答傾向からそれぞれに各解の固有値を求めることができ、それによって決定される各ケースの座標上の位置を使って8分類することができる。次にその8分類と元の住生活の関心の項目との相関を求め（表一4）その特徴を表すように表一4のようなカテゴリー名をつけた。この作業で得られた新変数を「住生活の関心型」と名称する。最も多い型は「整理清掃」型、次が「装飾装備」型である。

各型の関心の示し方には特徴がある。項目のほうに着目すると住宅改善、住宅問題、住み方のルール、伝統行事については高い関心を示す型と全く関心を示さない型（「整理清掃」、「装飾装備」型）と両極に分かれ、関心を持つ理由が問題の当事者であるか否かによるといえる。中でも「住宅問題」型、「集住生活」型ではすべて住宅・土地問題に関心を持ち現状の住生活に強い問題を抱えている型であることを明示している。さらに「集住生活」型と「伝統行事」型は比較的色彩豊かなことがらに関心を示していることがあげられる。反対に「住宅改善」型、「近隣関係」型はその名称を代表する項目以外への関心がきわめて低い。「維持保全」型と「整理清掃」型

表—4 住生活の関心型の分類率

解Ⅰ、解Ⅱによるフィールド	合計	第Ⅱ象限		第Ⅲ象限		第Ⅰ象限		第Ⅳ象限	
		住宅問題	住宅改善	装飾装備	維持保全	集住生活	近隣関係	整理清掃	伝統行事
不明を除く合計	878人 100.0%	80 100.0%	58 100.0%	154 100.0%	143 100.0%	66 100.0%	78 100.0%	218 100.0%	81 100.0%
住宅・土地問題	21.6	+++100.0	+39.7	---- 0	---- 0	+++100.0	28.9	---- 0	---- 0
家を改善すること	38.2	47.5	+++100.0	----13.0	+++100.0	--- 12.1	25.6	---- 0	38.3
部屋の使い方	45.0	42.5	---- 6.9	+++71.4	49.0	57.6	--- 19.2	39.4	46.9
室内装飾・模様替え	45.1	50.0	---- 0	++85.6	43.4	53.0	---- 16.7	49.1	46.9
庭や草花の手入れ	39.0	41.3	---- 3.4	50.6	42.0	37.9	--- 15.4	42.2	49.4
掃除や整理整頓	64.6	50.0	---- 13.8	74.0	66.4	72.7	---- 231	+ 81.2	82.7
住宅の手入れ	30.5	31.3	- 13.8	-19.5	30.1	31.8	- 15.4	+ 40.8	+ 49.4
近所との関係	53.1	---25.0	34.5	--- 8.4	41.3	+++ 92.4	+++ 92.3	+++ 76.6	66.7
住み方のルール	10.9	--- 0	- 0	---- 0	---- 0	+++ 31.8	+++ 39.7	10.1	+++ 27.2
古くからの行事	12.0	-- 1.3	8.6	---- 0	--- 2.8	-- 0	+++ 37.2	--- 0	+++ 81.5

数字の前の記号は項目毎における住生活観と全体との間のが二乗検定による有意水準を表す
4つは0.1%, 3つは0.5%, 2つは1%, 1つは5%水準。+は全体より多い, -は全体より少ない

表—5 住生活の関心型と基本属性との相関

属性項目名	P値
学校	0.0001
地域	0.0001
家族型	0.0001
父親の職業	0.4549
母親の職業	0.8796
住宅の形式	0.0001
住宅の用途	0.0001
建築年代	0.0001
居住年数	0.0118

P値: が二乗検定による有意水準の値

は関心の示し型が平均的である。

表—5は「住生活の関心型」と各基本変数との相関を表したものである。「住生活の関心型」は地域、住宅条件、居住年数、家族型との間で有意差が認められた。図—4は地域別の「住生活の関心型」をみたものである。この中で地域によって最も大きな有意差がみられたのは「集住生活」型である。「集住生活」型と「住宅問題」型は都市化地域ほど比率が高く、反対に「伝統行事」型、「維持保全」型は農村地域ほど高い（いずれも5%以下の水準で有意差がみられる）。「整理清掃」型は地方の人口急増地域で高い比率を示した。「住宅改善」型と「近隣関係」型は農村と、都市との間で相反する関係にあるが5%水準の有意差は認められなかった。

4) 住生活の関心の位置

本調査対象者において現在生活の中で最も関心が高い分野は圧倒的に食生活である。住生活を生活の第1の関心分野に挙げたものは全体の14.4%で、食生活、教育問題について3番目の位置にある（住生活の平均順位2.9位、表—6参照）。住生活の関心は核家族、共同住宅、併用住宅、都市伝統産業地域・地方小都市地域で相対的に高い傾向を示した。住生活への関心順位には「住生活の関心型」による差が大きい（図—5）。「住宅問題」型では1位が30%、2位以上では56%に及び効率を占め

表—6 生活分野別関心の順位

	1位	2位	3位	4位	5位	平均順位
計不明省略	884人	871人	867人	864人	864人	
食生活	47.9%	27.7%	16.1%	7.6%	0.5%	1.84
教育	33.0	33.0	19.8	12.5	1.0	2.16
住生活	14.4	24.1	26.9	26.6	8.3	2.90
衣生活	2.4	9.0	26.5	36.2	26.2	3.74
老人問題	2.6	6.3	10.7	17.0	63.4	4.32

た。「近隣関係」型でも2位以上が47%ある。一方「装飾装備」型「維持保全」型「整理清掃」型では4位以下が約40%を占めて関心が低く、明らかに住宅需要、住宅問題が居住者の関心を引き起こしていることが分かる。

(3) 親の住教育態度

1) 住教育に心がけている項目

表—7は住生活に関して日頃子供の教育として心がけている項目を表したものである。選択肢は教育の内容が住生活様式、立居振舞い、住宅管理の技術、近隣関係、住生活の習慣などを表すような表現とした（表—7参照）。

この中で近所迷惑にならないを挙げたものが82%に

図—4 地域別住生活の関心型

図—5 住生活の関心型別生活の関心の中に占める住生活の順位

表一 住宅形式・家族関係・地域別住教育の心がけ

	合計	住宅形式		家族型		地域				
		戸建て	集合住宅	核家族	世代家族	農村 小都市	地方 急増地	都心伝統 産業地	集合住宅 多有地域	
不明を除く合計（実数）	865人 100.0%	592人 100.0%	259人 100.0%	571人 100.0%	239人 100.0%	116 100.0%	147 100.0%	195 100.0%	163 100.0%	224 100.0%
近所迷惑にならない	82.1	81.1	84.6	84.4	75.7 **	86.2	81.0	85.1	84.7	83.0
住生活の習慣	37.4	41.9	27.0***	34.2	44.8 *	55.2	40.8	32.8	44.2	26.8 **
深夜の楽器演奏の配慮	37.3	34.1	44.4 **	41.7	27.6 **	16.3	36.7	35.9	40.5	50.4***
周囲との調和	33.0	34.8	29.0	32.9	33.5	32.8	33.3	29.7	36.8	31.7
季節感	31.3	33.4	26.3 *	30.1	32.2	32.8	31.3	31.3	35.6	28.6
見苦しくない振舞い	30.9	32.6	27.0	31.3	29.3	37.9	34.0	23.6	30.7	34.8
便利なものの技術や知識	26.7	28.0	23.6	25.8	30.1	31.0	24.5	22.1	33.7	25.9
住居の手入れ法	20.7	22.0	17.8	18.0	27.2 **	30.2	17.7	18.5	23.3	19.2
家の中では静かにする	15.9	12.5	23.6***	17.7	12.1 *	9.4	17.0	13.8	14.1	22.8***
近隣と合わせる	14.8	16.0	12.0	14.7	14.6	22.4	15.6	13.8	12.9	13.4
しきたりよりも合理的考え方	12.8	12.2	14.3	11.6	15.1	14.7	10.2	13.3	11.7	14.3
室内装飾等のセンス	12.8	12.7	13.1	11.9	14.6	8.6	12.2	10.8	14.1	16.5
住生活上の伝統の伝承	12.1	14.7	6.2***	9.8	19.2 **	29.3	14.3	8.7	9.8	7.1***
科学的に考えた行動	4.0	4.2	3.5	4.6	3.3	2.6	1.4	4.6	4.9	5.4

Pとはカイ二乗検定による危険率を表し、* P<0.05, ** P<0.01, *** P<0.005水準で有意差がある

達し、これが今日の親のきわめて一般的な住教育の心がけとなっている項目であるといえる。次は、深夜の楽器などの騒音に対する配慮と住生活上の習慣について（38%）である。回答が高率を占めた項目は周囲との相対的な関係を示す項目が多い。これに対して、技術の伝承に関する項目は20%強にとどまった。さらにセンス、合理性、科学性といった非相対的な項目は回答が割前後と低くなった。また習慣を重視する回答が多いにもかかわらず、住生活上の伝統を伝承するという回答は12.1%しかなかった。

住教育の心がけについてもやはり各種の居住条件の違いで有意差がみられる（表一）。たとえば、騒音など近隣迷惑に配慮する項目を重視しているのは核家族、共同住宅などの都市型の居住環境にいるものが多く、一方同じ近隣関係でも近隣との調和に関する項目は戸建て、世代家族が多く挙げている。また感性を育てる可能性を持った季節感としつらえのセンスは前者が戸建て・世代家族に、後者が共同住宅・核家族に多い。住生活の習慣、伝統の伝承、住居の手入れ法など慣習的な項目は三世代家族や戸建てなどに比較的多く現状の居住環境の中に伝統を伝承してきていることを反映している。一方、合理性や科学性についてはその逆になった。

2) 住教育態度の分類

親の住教育のこころがけを形成している要因を分析するために住教育の心がけについても数量化を試みた。図一6はその解Ⅰと解Ⅱを使って作成したものである。これによると、解Ⅰではマイナスの方向に規範や習慣などを表す項目が、プラスの方向には技術、センスや知識等テクニカルな項目が並び、両極に「伝統の伝承」と「しきたりよりも合理性」の項目が対置した。したがって解Ⅰは教育のよりどころを表す軸であると考えられ、教育のよりどころを保守的慣習に置くか、変化に対応した合

表二 各基本属性と住教育の心がけとの相関

属性項目名	P値
学校	0.0001
居住地の型	0.0001
家族型	0.0001
父親の職業	0.9095
母親の職業	0.7266
母親の年齢	0.7584
住宅の形式	0.0001
住宅の用途	0.4406
建築年代	0.0274
居住年数	0.4027

P値：カイ二乗検定による有意水準の値

図一6 林の数値化Ⅲ類による住教育の心がけの項目の分布（解Ⅰ、解Ⅱ）

理性に置くかを分けている。解Ⅱではマイナス方向に近隣迷惑のもとになる行動を律する項目が並び、プラスの方向には住居の手入れや伝統、科学性といった項目が並んだ。すなわち解Ⅱは教育目標を表す軸であると考えられ、他者との関係行動を重視するか、人間関係よりも技術力や感性を重視するかを分けているといえる（なお解Ⅲは抽象的・規範的内容と具体的・技術的内容に分ける軸となった）。

次に上記の2軸の直交座標によって分かれた4つの座標面に着目する。第1象限は周辺に言及する項目が無く

表—9 住教育の心がけと住教育の態度型（単位％），カイ二乗検定による全体との間で有意差検定

合計	行動重視	手段重視	相隣重視	調和重視	習慣重視
不明を除く合計（実数）865人 100.0%	241人 100.0%	163人 100.0%	135人 100.0%	209人 100.0%	154人 100.0%
住生活の習慣 37.4(2)	----17.8(6)	33.7(4)	----12.6(8)	38.8(3)	+++80.5(1)
住生活上の伝統の伝承 12.1(13)	--- 3.7(11)	7.4(12)	--- 0	6.7(11)	+++44.8(4)
住居の手入れ法 20.7(8)	--- 8.7(9)	23.3(9)	13.3(7)	22.5(8)	+++35.1(6)
周囲との調和 33.0(4)	- 21.2(5)	27.6(6)	--- 8.9(11)	+++47.8(2)	+++50.6(3)
近隣と合わせる 14.8(10)	10.4(8)	- 7.4(12)	--- 4.4(12)	+++27.3(7)	17.5(9)
季節感 31.3(5)	29.0(4)	27.0(7)	---12.6(8)	35.9(4)	39.6(5)
見苦しくない振舞い 30.9(6)	38.2(3)	23.3(9)	---14.1(6)	34.9(5)	29.9(8)
近所迷惑にならない 82.1(1)	92.5(1)	69.9(1)	85.2(1)	78.9(1)	59.7(2)
室内装飾等のセンス 12.8(11)	--- 3.7(11)	+++26.4(8)	11.9(10)	9.1(10)	14.3(10)
便利なものの技術や知識 26.7(7)	--- 4.1(10)	+++63.8(2)	22.2(4)	-15.8(9)	33.1(7)
科学的に考えた行動 4.0(14)	--- 0	+++17.2(11)	3.0(13)	--- 0	1.3(12)
しきたりよりも合理的性 12.8(12)	--- 0	+++54.6(3)	14.8(5)	--- 0	--- 0
深夜の楽器演奏の配慮 37.3(3)	42.7(2)	33.1(5)	+++66.7(2)	29.2(6)	--- 9.1(11)
家の中では静かにする 15.9(9)	17.0(7)	--- 4.3(14)	+++63.7(3)	--- 1.4(12)	--- 0

（）内は各型における順位，+は全体より回答の比率が多く，-は少ないことを表す。4つは $p<0.001$ ，3つは $p<0.005$ ，2つは $p<0.01$ ，1つは $p<0.05$

合理的でテクニカルな教育態度が伺える。これとは逆に第2象限は音にまつわる具体的な行動を律する項目のみが集まり，周辺の，中でも近隣を強く意識した教育態度といえる。第3象限は同じく他人の目を意識した項目の集まりであるが，特に具体的な内容を表してはいない。いわば「恥をかかない」ようにすることを重視する最も他律的な教育態度といえる。第4象限は周辺との調和や習慣，伝統にいたるものが位置し，教育の目標を既存の基準に置こうとする保守的教育態度である。第3象限と第4象限の境はあまり明確ではない。

親の住教育態度の分類は住教育の心がけについて解Ⅰ，解Ⅱを使った直交座標平面に現れた上記の特徴を踏まえ，まず4分した。その結果第4象限が41%以上を占めたので，このうち第3象限に近い領域を独立したカテゴリーとして扱うことにし，解Ⅱの0.5を境にして2分し，計5分類とした。次に以上の結果と元の住教育の心がけの各項目と対応させた上で（表—9），図—7のように各カテゴリー名をつけ，この変数を「住教育態度型」とする。「調和重視」型が31%を占め最も多く，「習慣重視」，「相隣重視」型は逆に少ない。

「住教育態度型」と元の住教育のところがけの各項目との関係をみたのが表—9である。「行動重視」型はあまり積極的な意識を持たず，かつ「習慣重視」型，「手段重視」型と相反した。「相隣重視」型も回答した項目

図—7 住教育態度の構造

表—10 住教育の態度型と基本属性との相関

属性項目名	P 値
学校	0.0001
地域	0.0001
家族型	0.0002
父親の職業	0.2937
母親の職業	0.4751
住宅の形式	0.0001
住宅の用途	0.0186
建築年代	0.0022
居住年数	0.4005
住意識型	0.0001
住意識	0.0001

が少なく，かつ「習慣重視」型と相反する。また「相隣重視」型と「調和重視」型は共に周囲への配慮を重視しながらそれぞれが相関する項目は相反関係にあることが分かる。前者には相隣トラブル回避的・規律的意識がみられ，後者には周辺同調的意識がみられる。「手段重視」型はどの項目にも回答が多い。

図—8は「親の住教育態度型」を地域別に表したものである。「習慣重視」型は農村で他の地域の約2倍に達し際だっている。「調和重視」型は農村，地方に多く都市化とともに漸減する。「行動重視」型は都市化・新住民に多い。「相隣重視」型は集合住宅多有地域で25%に達し，他の地域は15%未満しかないと比べて注目に値する。「手段重視」型には地域差がない。住宅形式別に有意差がみられたのは「調和重視」，「習慣重視」，「相隣重視」型で，前2者は一戸建ての方に，後者は共同住宅に多かった。そのほか家族型，建築年代等との間で1%水準以下で有意な差が認められた。

（4）「住生活の関心型」と「住教育態度型」の関係

図—9は「住生活の関心型」と「住教育態度型」の関係を表したものである。「住生活の関心型」と「住教育態度型」の間にはきわめて強い相関が認められる（有意

図—8 地域別住教育態度型

図—9 住生活の関心型別住教育態度型

水準 0.01%)。「習慣重視」の「住教育態度型」は「伝統行事」型「住宅改善」型の「住生活の関心型」に特に多く、住生活の習慣を伝承することが住宅の存続と密接な関係にあることを物語っている。「手段重視」の「住教育態度型」が比較的多い「住生活の関心型」(「装飾装備」型「住宅問題」型「維持保全」型「住宅改善」型)はいずれも住生活の関心の対象が住宅にあったものである。これらの型が住教育においても生活の調和よりも生活手段に関する事柄を重視しているという対応を読みとることができる。「集住生活」型と「住宅問題」型は共に都市化過程で表面化した住宅問題を内在した「住生活の関心型」であるが、前者には「行動重視」と「相隣重視」の「住教育態度型」が比較的多くその問題性を住教育態度にも反映させているのに比べて、後者にはほとんどその特徴がない。これは前者の問題が「住生活の関心型」の影響を受けた主観的なものであるのに対して、後者の問題が客観的であることを表している。

「行動重視」・「相隣重視」と「調和重視」とは共に周辺との相対関係を重視する「住教育態度型」でありながら前2者が規律による相対関係形成態度であり、後者が習慣同調的態度であるという相反する関係がみられた。この違いに着目して「住生活の関心型」をみると「装飾装備」,「集住生活」型では前2者の「住教育態度型」が比較的多く、その反面後者の「住教育態度型」が少なく都市化過程で進行している地域意識を潜在させていることを表している。後者の「住教育態度型」は、「整理清掃」,「近隣関係」,「伝統行事」の「住生活の関心型」と対応している。

表—11は「住生活の関心型」と「住教育態度型」のクロス表における「住生活の関心型」の各型相互の有意差を検定し、表—12は同じく「住教育態度型」の各型相互の有意差を検定した結果を表した。これによると「住生活の関心型」は住教育態度を媒介にしてそれぞれの特徴を明らかにできる。「住宅改善」型と「伝統行事」型は「装飾装備」,「集住生活」,「整理清掃」の各型ときわ

表—11 表—9において住生活の関心型相互の有意差検定

	1	2	3	4	5	6	7	8
1 装飾装備				*			***	****
2 集住生活							*	****
3 維持保全				*				**
4 整理清掃	*		*		*		****	****
5 住宅問題				*				
6 近隣関係								
7 住宅改善	***	*		****				
8 伝統行事	****	****	**	****				

*0.05>P>0.01, **0.01<P<0.005, ***0.005>P>0.001, ****0.001>P

表—12 表—9において住教育態度型相互の有意差検定

	1	2	3	4	5
1 行動重視				*	****
2 手段重視				****	***
3 相隣重視					****
4 調和重視	*	****			****
5 習慣重視	****	***	****	****	

*0.05>P>0.01, **0.01<P<0.005, ***0.005>P>0.001, ****0.001>P

めて大きな有意差が認められ、後者を新規住宅取得者型、前者は旧住民型といえることができる。一方、「整理清掃」型はその他の多くの型との間でも有意差が認められ、住宅内の日常性に関心が集中していたことを反映している。反対に「住宅問題」型は「整理清掃」型以外の型とは有意差を示さなかった。

次に、「住教育態度型」について考察する。「習慣重視」型は他のすべての型との間で0.5%水準以上の有意差がみられ全く独立したタイプである。次に「調和重視」は「相隣重視」型以外の「住教育態度型」との間で有意差が認められた。この両者は共に周囲の動向に合わせていくことを重視している点で一致しているが、しかし「相隣重視」型は「習慣重視」型以外とは有意差がなく両者が異なるタイプであることが分かる。

(5) 住意識と地域参加

上述してきたように住教育態度には周辺への配慮が大きな位置を占めているが、その態度は周辺への接近の仕

図—10 住教育態度型別地域参加

図-11 住生活の関心型別地域参加

方の違いによって相反するものとなった。そこでこの特徴を補足するために地域参加の様子をみた。図-10は「住教育態度型」による地域参加の状況をみたものである。「相隣重視」、「行動重視」、「調和重視」型に着目してみると、「調和重視」型は声を掛け合うこと、子供を預け合うこと、役員になることのいずれにおいても地域参加に積極的であるのに対して、「相隣重視」型は最も消極的、その次に「行動重視」型も消極的であることがわかる（3者の間ではいずれも1%未満の水準で有意差あり）。このように地域参加においても近隣関係に内向的である「相隣重視」型と外交的である「調和重視」型の図式を裏付けることができた。

一方、図-11は「住生活の関心型」についてみたものである。ところで「相隣重視」、「行動重視」の「住教育態度型」と相関が認められた「住生活の関心型」は「集住生活」型と「装飾装備」型であったが、「装飾装備」型は地域参加に消極的であり、上記の「住教育態度型」と対応しているのに対して、「集住生活」型は逆に他の「住生活の関心型」と比べて役員になること、子供を預かることに積極的意向を示す傾向がみられた。このことは「集住生活」の「住生活の関心型」の中には今回抽出できなかった上記とは異なる、近隣関係に積極的住教育態度が潜んでいることが伺える。また「伝統行事」型が日常自然に声を掛け合う様子が明白に表れている。

5. 要 約

親の住生活の関心と住教育態度の構造を分析してきた結果を以下に要約する。

- (1) 住生活の関心は一般にはあまり強くはないが居住者の住生活・住宅事情の違いを強く反映し、現在住生活上の問題を抱えている場合に高い関心となって表れる。
- (2) 住生活の関心は居住地、住宅条件との相関が高く今回は小学5、6年生を持つ親に限定したこともあり回答者の年齢や職業との差はみられなかった。

特に共同住宅居住者は近隣関係への関心が高く、集住

化にともなう近隣トラブルという問題状況を反映して近隣関係の特殊性を表した。

- (3) 住生活の関心の構造を数量化を使って解釈を試みた。それによると住生活の関心の内容を構成する主要な要因は社会性対個別性という視点の広がり、生活対住宅という対象の違いと、かつ当事者の住宅需要・取得・定着・更新段階である。この段階が進むにつれて関心の対象はハードな住宅からソフトな生活に移動していく。

本研究では上記3要因を使って住生活の関心を「住宅問題」、「住宅改善」、「集住生活」、「近隣関係」、「装飾装備」、「維持保全」、「整理清掃」、「伝統行事」の8型に分類し、その名称を「住生活の関心型」とした。最も多い型は「整理清掃」型である。

- (4) 「住生活の関心型」は居住者の住宅事情を非常によく反映し、特に住宅・住生活の課題（問題）を持っている場合とそうでない場合の差が顕著であった。

- (5) 日頃の住教育に対する心がけ（態度）については圧倒的な親は近所迷惑にならないことをあげ、他にも対外性を意識した項目の心がけを支持した。その逆に、住教育にたいして周囲から自律した目標を持っている親は少ない。

- (6) 住教育態度を形成している大きな要因は合理性対しきたりに分けられる教育の帰属性（よりどころ）と、人間関係を律する行動対技術や感性に分けられる教育の目標である。本研究ではこの2要因を使って住教育態度を「手段重視」、「相隣重視」、「行動重視」、「調和重視」、「習慣重視」の5型に分類し「住教育態度型」とした。最も多い型は「調和重視」型である。児島秀夫は近世以来の日本の子育て論の目標は調和的人間関係の維持と与えられた課題の忠実な遂行である²⁾と述べているが、住教育においてもきわめて顕著に表れたといえる。

「調和重視」型は新旧いずれにも見られる「住教育態度型」であるが、その内容は古い居住者には習慣化された近隣との調和をさし、新しい居住者は商品志向に現れる中流意識に対応するような意識の違いとなって現れた。

- (7) 居住者の現在の住生活の関心は住教育態度の形成に影響を与えている。

新しい住宅地においては近隣関係が意識されており、近隣関係の重視はルールによって相隣関係を律する住様式を生むことになる。ところで近隣関係を強調する住意識の中には、トラブル回避的、規律的住教育態度が存在することが認められた。しかしその反面、その関係を出発点にして集住生活の利点を生かした人間関係を取り込もうとする住生活態度が潜在していることも伺うことができ、規制だけではなく集住生活の積極的な住様式を形成するための住教育態度の存在も感じられる。

- (8) 「住生活の関心型」と「住教育態度型」の関係に

において住宅の建築年数または同地域の居住年数が強い媒介になっている。したがって住様式の伝承にとって親の生活経験よりも居住地への定着が鍵となる。

本研究は家庭における住様式の伝承の構図を明らかにして住生活に関する今日の家庭の教育力とその特徴を把握することを目的にしている。本報ではそれに備えて住教育の立場から家庭教育者である親（伝承者）の特性を明らかにした。親の住生活の関心は居住条件によって形成されることが多く、したがって住教育態度も居住条件に左右されることが明らかになった。子供の住生活の習慣や住意識の形成に居住条件がどのように反映するか今後明らかにする必要がある。

引用文献・参考文献

- 1) 山崎古都子：民間分譲共同住宅の運営管理に関する研究，学位論文，1986
- 2) 児島秀夫：子育ての伝統を訪ねて，新曜社，p. 105，1989
- 3) 藤田英典：現代社会のしつけと学校教育，現代の児童観と教育，福村出版，1982

本研究は文部省科学研究費の助成を受けたものである。

注

- 1) 住居管理と住生活管理

ここでは住居管理を行為の主体者によって次のように分類し，住生活管理は主体者が居住者であるものを指す。行為の主体者による住居管理の分類

1. 住生活管理：
 - ① 家族の成立から消滅までの住生活全般に関して配慮と意思決定をし，住生活の遂行過程を見届ける行為（主体者は生活者）
 - ② 居住中の住環境条件を管理する行為，①と区別するために住生活環境管理とすることもできる（主体者は居住者または居住者集団）
 2. 住経営管理：
 - ① 経営面からの住宅管理（主体者は賃貸住宅の家主）
 - ② 供給業者に求められるアフターケア行為
 3. 業務管理：管理の専門技術をもつ管理技術者による委託管理行為（主体者は住宅管理業者，大工，工務店，修繕業者，清掃業者，住宅関連サービス）
 4. 居住環境政策：住みよい街をつくり，維持することの責任をもつ行政行為（主体者は自治体，政府等）
- 2) 住意識とは住にかんする潜在的な意識で，住生活への関心，態度，要求，行動などによって表象される。本論ではその一部である住生活の関心と住教育の態度を考察した。

(1991年2月7日原稿受理，1991年8月12日採用決定)

英文要約 (Summary)

This paper presents the basic research needed for the analysis of home education as related to the housing environment (here after : home education on housing). The purpose of this paper is : 1/ to describe how the conditions have evolved through the years and to determine the variables of this evolution ; 2/ to examine the needs of home education on housing and the education methods applied in today's society and 3/ to illustrate the actual availabilities of home education on housing.

Home education on housing is considered to be under the responsibility of parents. This paper, therefore, has focused on the analysis of the parents ideas and expectations concerning the factors involved in determining the course of education.

We obtained the following results. In the present days, the interests of parents on housing life can grouped into eight categories : the housing problem, improvement of housing, decoration of housing, maintenance of the housing situation, rules in the crowded community life, relationship with the neighbors, arrangement of housing, traditional ceremonies.

Through collective analysis, we found out that the views of housing life appear at each stage of housing demand, including acquisition, settlement and renewal. Dwellers of apartment house have strong interest in having neighborhood relationship.

According to where the parents put the emphasis, policies of home education on housing can be typified as follows : neighborhood relationship, behavior of living, keeping uniformity, customs, material items. In this paper, these types are named 'views on housing education'. The parents' views of housing life and views on housing education both show high correlation between the type of housing, the age of the housing facility, the current living conditions and the type of family. However, no correlation was found between the vocation and the age of parents. A high degree of correlation was found in the categories between 'views of housing life' and 'views on housing education'.